進路ジャーナル

第 106 号

平成29年12月14日

編集発行

磐城桜が丘高等学校

進路指導部

印刷 ㈱ネクスト情報はましん

細き流れも大河となる

いよいよ受験本番、頑張れ三年生！

推薦入試・AO入試もほぼ終了し、センター試験まで残り三十日となります。一月十三日（土）・十四日（日）には大学入試センター試験が行われ、その後すぐに私立大学入試が始まり、国公立大学一般入試前期試験、後期試験と続きます。多くの三年生にとっては、いよいよ進路目標を実現させる大事な時期を迎えました。悔いが残らないように慎重に準備して臨んで下さい。

大学入試センター試験

一月十三日(土)・十四日(日)に、いわき明星大学を会場として大学入試センター試験が行われます。本校では、二六〇名が受験する予定です。

センター試験は別表のように丸二日間の体力勝負となります。体調もベストの状態で普段の力が発揮できるよう準備して下さい。また、センター試験終了後は一月十五日(月)が自己採点日となります。センター試験の結果が各自に届くのは卒業後の四月中旬以降になるため、センター試験は自己採点の点数をもとに国公立大等への出願を検討することになります。

第1日：1月13日(土)

試験教科	試験時間
地理歴史 公民	2科目選択　9:30 ～ 11:40 1科目選択 10:40 ～ 11:40
国語	13:00 ～ 14:20
外国語	【筆記】　15:10 ～ 16:30 【リスニング】　17:10 ～ 18:10

第2日：1月14日(日)

試験教科	試験時間
理科①	(基礎科目) 9:30 ～ 10:30
数学①	11:20 ～ 12:20
数学②	13:40 ～ 14:40
理科②	2科目選択 15:30 ～ 17:40 1科目選択 16:40 ～ 17:40

国公立大学一般入試

センター試験の自己採点後、ベネッセや河合塾などのセンターリサーチの情報を基に、一月二十二日～三十一日の間に国公立大学の出願をすることになります。この期間中に前期・中期・後期とも一斉に出願することになるので注意すること。センターの結果によっては第一志望からの変更も考えられます。出願する可能性のある国公立大学の願書は取り寄せておくようにしよう。

国公立大では原則として、一月に行われるセンター試験と、二～三月に大学ごとに行われる二次試験の合計点で合否が決まります。二次試験は「前期日程」と「後期日程」、そして「中期日程」（一部の公立大のみで実施）の組み合わせで、最大三回の受験が可能です。ただし、前期日程で合格し入学手続きをすると、後期日程（中期日程）を受験しても合格できない仕組みになっているため、第一志望校は前期日程で受験するのが基本です。なお、前期日程と後期日程の募集人員を比較すると、前期日程の比率が高く、後期日程は難関大を中心に廃止・縮小の傾向が続いています。

センター試験では五教科以上を課す国公立大が約七割に上っています。特に国立大では五教科以上を課す学部の割合が八割以上であるため、早めの対策が重要です。一方、二次試験では二～三科目が一般的です。文系学部であれば国語、地歴・公民、英語など、理系学部であれば数学、理科、英語など、入学後に専門分野を学ぶうえで必要な科目を課すパターンが多いようです。また、後期日程の場合、小論文や面接、総合問題などを課す大学が多いのが特徴です。

前述しましたが、国公立大の一般入試の合否は、センター試験と二次試験の合計で決まります。ただし、どちらの点数を重視するかは、大学・学部によって異なっています。センター試験と二次試験のどちらの対策をより重視すべきか、受験戦略にも影響が出てくるため、志望校の配点比率は事前に把握しておくことが大切になります。

最後に、国公立大学を志望している場合は、私立大学合格だけで安心せずに、最後まで国公立大学をめざすことが重要です。前期がダメでも後期で合格といったことも十分考えられます。最後まであきらめないことが進路実現への近道となります。

私立大学入試

・一般入試

私立大学では、一月下旬～二月中旬（一部は三月中旬まで）の期間で各大学が個別試験を実施します。これは入学に必要な基礎学力を測る試験で、センター試験の受験は不要です。また、全大学で統一の日程が設けられているわけではないため、試験日が重ならなければ何校でも受験できます。さらに同じ学部学科でも複数の入試方式がある「複線入試」を採用している場合がほとんどです。

試験科目は大学・学部学科により異なりますが、三教科型が基本。文系では英語、国語、地歴・公民や数学から一科目選択、理系では英語、数学、理科が課されるのが主流です。試験内容は正しい知識を問う選択式のほか、論述式、小論文を課す大学もあります。一～二教科の場合もありますが、科目数が少なくなると高倍率になる傾向があるので注意しましょう。配点は大学・学部学科によって異なり、出題はマークシート方式と記述方式の両方があります。

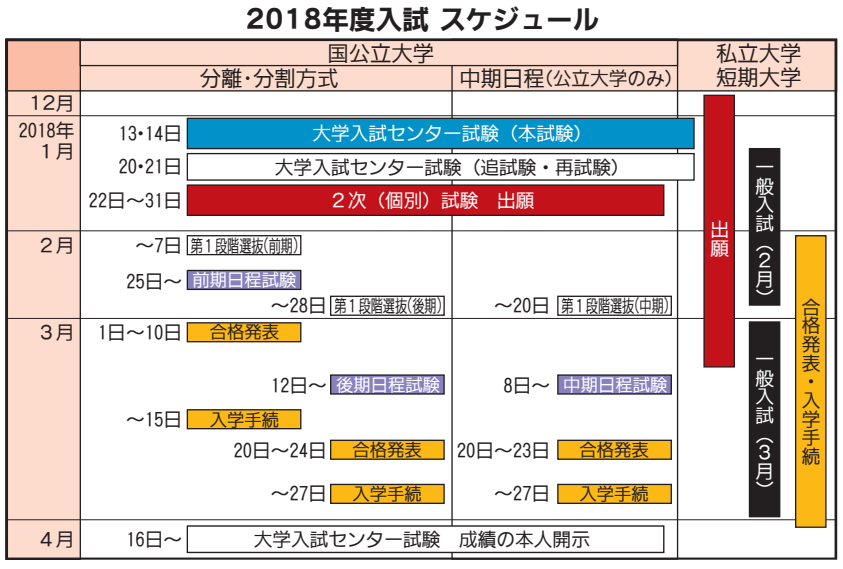
一般入試では、三教科型の他にも多様な入試方式が存在します。一つの学部学科で科目や日程、会場、採点基準が異なる二つ以上の入試を設けている場合も多くなっています。例えば、日程が選べる「全学部統一入試（全学部日程）」や「試験日自由選択制度」を利用すれば、他校や同じ大学の他の学部学科との併願がしやすくなります。また、特定の科目が得意な人は「科目選択型」「得意科目重視型」入試を選べば合格に近付けるかもしれません。その他に、地方で受験できる「地方入試（地方会場、学外試験会場）」や、万が一不合格だった場合に再チャレンジできる「後期日程（三月入試、二次募集）」などもあります。また学力試験の他に、小論文試験を課す場合や、簿記など特定の資格を持っている人、TOEIC（R）などで一定のスコアを保持している人に加点する方式を実施している大学もあります。

・センター利用入試

センター試験の受験科目を利用して複数の大学・学部学科を受けられるため、「効率よく受験したい」「合格チャンスを増やしたい」という受験生に人気です。ただし、一般入試より難易度が上がる場合もあるので要注意です。

センター試験利用入試には、センター試験の成績のみで決まる「単独型」と、センター試験と個別試験の両方が課される「併用型」の二種類があります。さらに、科目や配点比率は大学・学部学科によりさまざまです。また、出願はセンター試験後が多いですが、試験前に期限が設けられている場合もあります。センター前出願の場合は、結果が思わしくなかった場合に備えて、一般入試の受験計画も立てておいたほうがいいでしょう。また一部では、一般入試後に出願できる大学や複数回受けられる大学もあるため、再チャレンジに利用するのも一つの手です。

2018年度入試 スケジュール



夢を叶えるために

～1学年 夢ナビライブ～

去る十月七日(土)、仙台で開催された「夢ナビライブ」に一年生が参加した。

「夢ナビライブ」とは、日本全国五会場(仙台、東京、名古屋、大阪、福岡)で約十万人の高校生が参加する大規模な「大学研究&学問発見のための国公私立大合同進学ガイダンス」で、本校でも一学年を対象に三年前から参加している。

この企画では、「学びたい学問」と「進みたい大学」に出会える多彩なイベントを実施しており、下記の五つのイベントを中心に、生徒自らが学びたい学問を発見し、学問のイメージを明確にしたり、進学に関して気になることを担当者に直接質問したりなど、究めたい学問の発見から学べる大学との出会いまで一度に体験できる内容となっている。今年は本校生二六二人も他の高校生とともに積極的に参加した。

【5つのイベント】

① 学問の講義ライブ（一四〇講義）

さまざまな専門分野の大学教授が行う三十分の学問のミニ講義。普段聴くことができない大学の学問の魅力が、三十分でわかりやすくまとめられた学問の講義ライブで、興味のあるテーマや、志望している学部・学科の講義をどんどん受講すれば、大学で学びたい学問が見えてくるようになっている。

② 大学個別説明ブース（九十七校）

大学情報を教えてくれる入試担当者による個別ガイダンス。さまざまな大学の入試制度や特色を、直接知ることができる。

③ まなびステーション（二十二ジャンル）

大学教員が学問の魅力を紹介してくれる個別ガイダンス。大学の先生が専門とするジャンルの「学びの進路相談」を受けることができる。

④ 夢ナビTALK（26TALKS）

学問の面白さが三分間でわかるプレゼンテーション。さまざまな分野の大学教授が、学問の魅力を三分間で高校生に伝える。

⑤ 大学説明会（十五大学）

大学の全体像が三十分でわかる説明会。各大学の担当者が自学の特徴や入試のポイントなどを三十分間でわかりやすく説明する。

第一志望はゆずれない

進路指導主事　豊田　浩美

二〇一八年度大学入試センター試験は、二〇一八年一月十三日土曜日・十四日日曜日の両日に実施される。これは、過去最も早い日程での実施となる。さる十月六日に出願が締め切られたが、大学入試センターの集計によると、志願者数は前年度と比べて約二・二%減少している。高校卒業者数が減少する年度ということもあり、最終的な確定志願者数は約一万五千人減少すると予想されている。確定志願者数については十二月上旬に発表される予定だが、三年ぶりの減少は確実と思われる。

出題教科・科目、試験時間割なども二〇一七年と何ら変わらないため、受験生は十分な対策を立て安心して準備に集中できることになる。今年は本校から、二百六十名の生徒が「冬の陣」に臨む。センター試験で高得点を獲得するには、英語、数学、国語で大きな苦手科目を作らないことが大切である。もし不安のある人は、どこか理解不十分な部分が残っているのだと自覚して、思い切って基礎的な部分をもう一度やり直す必要がある。「急がば回れ」のことわざのとおり、苦手科目・分野を克服する最後のチャンスを生かそう。

次に、教科書レベルの基礎力は身に付いていて、自分なりに理解もできているのに、模試では思ったような得点をとることができない人は、実戦的な練習が不足していることが考えられる。センター試験の試験時間は英国が八〇分でその他は六〇分と短いことから、てきぱきと解答していかないとすぐに時間不足になってしまう。これに加えて、本番では、緊張や環境の変化で日頃の力を充分に発揮できないこともよく起こる。こういった事態も想定して、日頃の学習においても、常に試験時間を意識して効率的に解答していく訓練が重要である。また、この時期になるとどうしても志望大学の合格判定に、今まで以上に一喜一憂してしまいがちである。しかし、模試を受けた後にどれだけ自分の弱点補強ができたかで模試の価値が決まるため、不明な点や誤答部分については、「本番前に発見できて良かった」と前向きに考えたいものである。

そして最後に、時間を有効に使い体調管理に努めることだ。規則正しい生活を心がけ、センター試験当日は心身ともに万全のコンディションで臨み、最高の結果が出せるように残りの日々を過ごして欲しいと願っている。

「桜が丘の生徒は、ギリギリまで力を蓄えていた分、本番で飛躍できる」と信じている。目先の困難から逃避しようとせず、志望校のレベルダウンや安全校の確保の話題は出さず、みんなが一丸となって「第一志望へ向かって進んでいくのだ」という強い気持ちを持とう。受験人口はピーク時の六割弱まで減少しており、絶対的な学力は以前ほど要求されてはいない。つまり、大学受験においては、以前よりももっと努力が報われるようになって来ているということである。故に、まだまだあきらめる必要はありません。「第一志望は、ゆずれない。」と心の中で叫び続けて、最後まで頑張ってください。

健闘を祈ります！